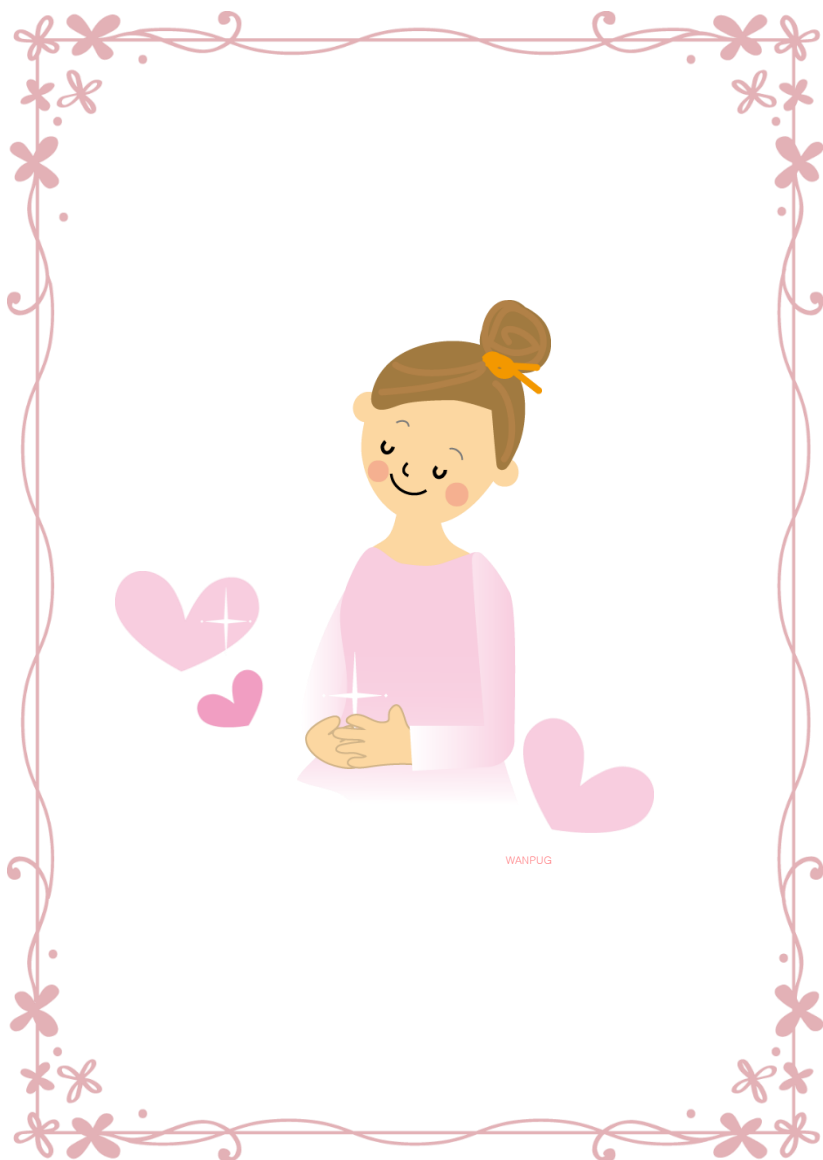


妊娠中の出血



WANPUG

妊娠中の出血

～特に妊娠中期以降の出血について～

妊娠5ヶ月以降の性器出血は、大きな問題のない出血から危険な出血まで様々です。

主な原因として産徴（おしるし）、子宮頸管ポリープ、
切迫流産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、
子宮破裂などが挙げられます。



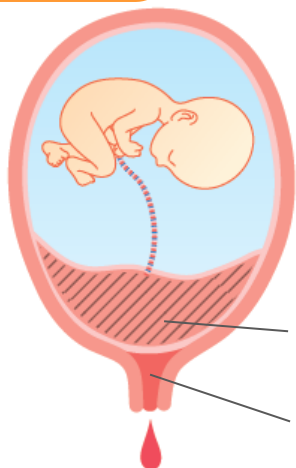
切迫流産、切迫早産

周期的なおなかの張り（子宮の収縮）が持続し、
子宮口が開いてきます。

この際に性器出血を伴うことがあります。

また、破水（お水おり）することもあります。

前置胎盤



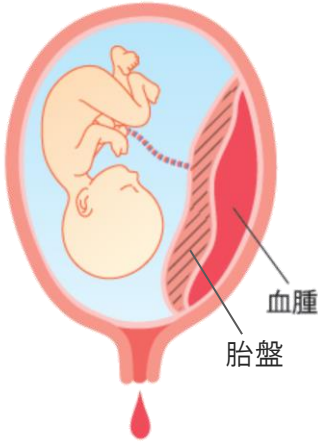
胎盤が子宮口を覆った状態です。

突然の出血を認めることがあります。

出血が多くなると、

母児ともに危険な場合があります。

常位胎盤早期剥離



常位胎盤早期剥離は、赤ちゃんが子宮内にいる間に胎盤が先にはがれてしまう状態であり、母児ともに危険な状態といえます。

常位胎盤早期剥離の経験がある方、母体の高血圧、喫煙、外傷などでは、要注意といわれています。突然の下腹部痛とともに性器出血を認めることがあります。また、胎動が減ることがあります。

子宮破裂

子宮が破れてしまう状態です。突然の腹痛に性器出血を伴います。特に、子宮手術や帝王切開の経験がある方は注意が必要です。



妊娠中期以降の性器出血のなかには、このように危険な状態が潜んでいることがあります。性器出血を認める場合は、予約を待たずに早めのご相談が勧められます。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

<産科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2022.7.改訂